

末梢血管病による腕手足の重症血行不全に対する新しい治療法、“血管新生療法”。

末梢血管病（閉塞性動脈硬化症・閉塞性血栓性血管炎/バージャー病・膠原病性血管炎）によって腕手足の血管がひどく狭くなったり詰まったりすると、流れる血液の量が少なくなり、痛みや潰瘍が出現します。薬や血管手術で血液の流れが改善しないと、手の施しようが無くなり、痛みを苦しみ続けるどころか、腕手足の切断を余儀なくされることもあります。

私たちの体には、血液の流れ込みが悪いところに向かって新しい血管を作り、その血管を介して不足している血液を供給する仕組みがあります。新しい血管作りを人工的に促す治療法を“血管新生療法”と言います。私たちの教室では、体の中にある「骨髄細胞」や「皮下脂肪細胞」の中から必要な細胞だけを取り出し（写真左）、血液の流れが悪い腕手足に注射投与する（写真右）と言う血管新生療法（写真下図）を行っています。

効果が早い患者さんでは、注射投与 1 週間ほどで痛みが軽くなったり、潰瘍が治って来たりします。この治療法について詳しくお知りになりたい方、いつでも私たちの教室や久留米大学病院循環器病センターまでお問い合わせ下さい。

